

1 学校として目指す授業

【目指す生徒像】自己表現し、認め合える生徒	【目指す授業】①知識・技能を定着させる個別最適化された授業 ②思考・判断・表現の力を高めるICT機器を適切に活用した生徒同士の話し合い、発表を取り入れた授業
-----------------------	--

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、知識・技能が国の平均より3.8%高い。思考・判断・表現が国の平均より5.5%高い。 ・数学では、知識・技能が国の平均より10.0%高い。思考・判断・表現が国の平均より12.9%高い。 ・問題形式で特に国との差が大きいのは「記述式」で国語で10.9%、数学で12.9%高い。	・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。82.7% ・1，2年生のときに受けた授業で、タブレットPCなどのICT機器をどの程度使用しましたか。ほぼ毎日31.6%、週3回以上47.4%、週1回以上12.8% ・1，2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。85.7%

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
学校評価（生徒）令和5年度と令和6年度の比較 ・各教科の基礎的なことが分かったりできるようになったりしていますか。86.9%→88.3% ・授業中に他の人との話し合いや協働活動を通して理解を深めることができていますか。94.7%→85.4% ・自分の評価と評定についてどのようにつけられているか理解していますか。93.5%→88.9%

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・授業での考えをまとめる学習活動では、学び方を考えて工夫したりすることができる。発表に向けての学習活動では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫することができる。 ・話し合い活動では、自分と異なる意見に対して寛容であり、考えを深めたり、広げたりすることができている。 ・思考・判断・表現の観点での能力が高い。 ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。

4 学校全体の授業改善の視点

・知識・技能の力を確実に定着させるために、授業のユニバーサルデザイン化を標準とし、個別最適化を起点とする指導、支援を行う。学習・評価・改善をスモールステップで繰り返し、習得できたことには自信をもたせる。 ・思考・判断・表現の力を更に伸ばすために、タブレット型パソコンを使用した話し合い活動や発表の場面を適切に設定し、実施する。その振り返りも行い、適切に評価し、次の学習へとつなげる。
--

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	・個々の学習状況に応じて基礎の定着を図るとともに、話し合い活動や発表等の自己表現の機会を増やす。		・振り返りシートを活用し、自身の学習状況を客観的に把握できるようにする。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を活かし、基礎・基本の定着を図る。 ・グループワークを通して、思考・判断・表現する力を養う。		・ICT活用や話し合い活動を通して、問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行う。 ・予想・仮説のプロセスを重視して、規則性や関係性を表現する。		・表現活動において、グループの中で個人の考えを生かした様々な表現ができるようにする。		・個々の学習状況に応じて「知識・技能」では美術用語、印象的な言葉など言語表現を支援し「思考・判断・表現」では対話的活動を通じて能力を養う。		・ICTを活用し、生徒の技能に応じて個々の課題の解決に向けて主体的に取り組めるようにする。		・課題について調べた内容を話し合い、互いの意見を尊重しながらまとめる活動を行う。		・知識分野の基礎基本の定着を目指しながら、発表などの活動を通して表現の力を養う。		・自分の考えをグループ、クラスで発表する場面を設定して、考えを広げたり深めたりする活動を多く設定する。	
2学年	・学習目標と内容、学びの過程を明確に示し、達成度を振り返らせることで、教え方、学び方の調整を図る。		・振り返りシートを活用し、自己の考えを整理し、学習状況を把握する。 ・レポートや班での発表の学習を通じて、技能や表現の力を育てる。		・習熟度別少人数授業を活かし、個別最適化された授業を実践していく。 ・学び合い活動を通して、思考・判断・表現する力を向上させる。		・ICT活用や話し合い活動を通して、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行う。予想・仮説のプロセスを重視するとともに、結果を分析して仮説の分析を行う。		・ICTを活用して表現活動を客観的に見ることににより技能の向上につなげる。		・ICTを活用し、表現や鑑賞の幅を広げる。		・ICTを活用し、生徒の技能に応じて個々の課題の解決に向けて主体的に取り組めるようにする。		・課題について調べた内容をまとめ、発表に向けて工夫する活動を行う。		・ICT機器を活用することで、生徒が表現する内容を個別に選択できるようにし、表現する力を主体的に育む。		・意見交換する場面を必ず設定し、自分の意見を表現すると共に、互いに認め合える機会を意図的に増やす。	
3学年	・社会との関係の中で、自分の立場を明確にし、意見を述べられるように、ICT機器を活用しながら、表現活動の機会を多く設定していく。		・社会科の技能、判断や表現の力を向上するため発表の学習を取り入れる。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を活かし、個別最適化された授業を実践していく。 ・レポート作成をさせ、より思考・判断・表現する力を養う。		・ICT活用や話し合い活動を通して、実験結果や資料を分析して解釈する。規則性や関係性を見だして表現すること、探究過程を振り返る。		・ICTを活用して意図をもった表現をする能力を高める。		・ICTを活用し、表現や鑑賞の幅を広げる。また、発表までの制作活動の見通しを持ち、思考判断する力を養う。		・自己の課題や仲間の課題を見つけ解決するとともに、主体的に知識を広げ、技能を高められるようにする。		・課題について調べた内容をまとめ、発表して比較検討することで思考を広げ深める活動を行う。		・自ら課題や学習方法を選択することで個別最適化された学習を目指し、対話的活動を多く行うことで協働的な学びを通して自己調整を図る力を養う。		・ペア学習やグループ学習または振り返りの時間を通じて、様々な考えや自己の考えを深める工夫をする。	